

【参考資料】 佐分眞 略年譜

1898(明治31)年		名古屋市西区園井町(現・名古屋市中区錦)に、父・佐分慎一郎(1857-1915)、母・田中たま(1867-1944)の長男として生まれる。父は、一宮銀行、一宮紡績株式会社、一宮瓦斯株式会社、一宮電気株式会社の取締役を歴任し、一宮町長もつとめた(1898.5-1900.4)。母は、名古屋の花柳界で名妓とうたわれた芸者で、当時の軍部・政界の高官たちにもてはやされたという。
1905(明治38)年	7歳	名古屋市立菅原尋常小学校に入学。6年間首席を通して級長をつとめた。小学校前の便所の壁に巧妙な落書きをして画才を発揮した。
1911(明治44)年	13歳	愛知県立第一中学校(現・愛知県立旭丘高等学校)に入学。ボート部と柔道部で鍛える。1級下に伊藤廉(のち洋画家に)がいた。
1914(大正3)年	16歳	中学4年になり家出、三浦三崎で発見される。海に憧れて海員になろうとしたと伝えられるが、後年友人に打ち明けたところでは、複雑な家庭の事情に悩んで死を決しての事であったという。
1915(大正4)年	17歳	東京の川端画学校夜間部に通い、美術学校受験のための実技を学ぶ。5月16日、父・慎一郎没(58歳)。夏に北陸、北海道、東北など日本各地を旅する。
1916(大正5)年	18歳	東京美術学校・西洋画科に入学。
1921(大正10)年	23歳	東京の瀧之川町にアトリエを新築。
1922(大正11)年	24歳	東京美術学校を卒業し、幼馴染の土屋しげ子と結婚。当時、健康がすぐれず、兵役を免除される。
1923(大正12)年	25歳	9月1日、関東大震災。9月9日に長男誕生。
1924(大正13)年	26歳	第5回帝展に<静物>初入選。
1925(大正14)年	27歳	第6回帝展に<静物>入選。白日会賞を受賞し、会員に推挙。
1926(昭和1)年	28歳	妻しげ子死去。1年ほど、女学校の図画教員を勤める。
1927(昭和2)年	29歳	1月、画家仲間の小寺健吉とともに海路フランスに渡る。4月、パリ近郊のムードンで風景画を描く。11~12月、イタリア旅行。
1929(昭和4)年	31歳	6月、パリ近郊モレーへ写生旅行。9~10月、ベルギー・オランダ・ドイツを旅行、とりわけレンブラントに惹かれる。この年、光風会会員となる。
1930(昭和5)年	32歳	4~5月、スペインを旅行。10月、一時帰国。
1931(昭和6)年	33歳	第12回帝展で<貧しきキャフェーの一隅>が特選に。11月、再渡仏。
1932(昭和7)年	34歳	10月、南仏の小村で風景画を描く。12月、帰国の途につく。
1933(昭和8)年	35歳	第14回帝展で<画室>が特選に。翌年オープンの東京宝塚劇場の美術部嘱託として働く。
1934(昭和9)年	36歳	4月、日動画廊で個展。第15回帝展に<室内>を出品、3度目の特選となる。
1935(昭和10)年	37歳	5月、帝国美術院の改組が発表される。7月、改組発表後に結成された「第二部会」には参加せず、白日会・光風会も脱会。東京宝塚劇場の階段上に壁画を描く(のち焼失)。この頃、随筆家として名声が上がる。
1936(昭和11)年	38歳	2月頃、壁画が完成する。3月、伊豆方面に写生旅行。4月22日、母たまと息子と馴染みの寄席へ行き落語を楽しむ。4月23日未明、自宅画室にて自死。9月、銀座松坂屋にて遺作展が開催される。